

アーキテツ・ガーデン2012参加プログラム「LIXIL:GINZA[SUMAIセミナー]

リフォーム再考～長く住み続けることが本当のエコ～

● 住宅部会 ● 開催日：6月6日 ● 参加人数：27名

○現在日本の住宅の状況

平成20年の空き家率13.1%。H16～20年の5年間に住宅の取得方法に付いては「新築（建替えを除く）」が37.8%、「新築の住宅を購入」が35.7%、「建替え」が20.9%で中古住宅の取得は2.7%。住宅をリフォームして住宅寿命をのばし、同時に、中古市場の活性化と政策面のフォローが大切。

○中古マンションのリフォームの注意事項と事例紹介

リフォームする際の注意事項：耐震性能レベル、設備の老朽化や更新の状況の把握。実際のリフォームに関しましては床の仕様やリフォーム出来る範囲がマンションにより異なる事と「管理規約に関する事等事前確認が大切。

○戸建て住宅のリフォーム注意事項と事例紹介

「設計図」や「確認申請の副本や検査済書」・「改修した時期と内容」と言った住宅の履歴に関する情報がそろって保存されている事が大切であり、今後それが資産価値を高める事になるという事。



アーキテクト・ガーデン2012参加プログラム「OZONEセミナー

『JIA建築家と考える住まいづくり』『住まいの安心と安全』」

● 住宅部会 ● 開催日：6月9日 ● 参加人数：15名

○自分の身の回りの被害を小さくする減災

住まいの“安心”と“安全”というテーマは住宅部会のセミナーでも大変重要なテーマの一つです。今回は、これまで同様建物の耐震性という視点も入れながらも、最近自治体でも被害想定の見直しがされたりしている中で、もう少し建物の周囲の話、地震の事や地盤の事を整理した。

○地震について

大きな視点から地震の種類やその発生の原因、震度の事などについての説明。

○地盤についてと耐震改修された事例

地盤の種類や地盤による揺れ、被害の違い、地盤調査についての注意点。また、去年の東日本大震災でも被害の多かった地滑りや液状化についての説明。

建物の耐震性の話：建築基準法や品確法における耐震性や耐震等級



アーキテツ・ガーデン2012参加プログラム「街歩き・住宅編『日本的な住まいと暮らし』」

- 住宅部会
- 開催日：6月16日
- 参加人数：6名

小金井の「江戸東京たてもの園」に解体移築されている、関東地方の江戸時代後期の伝統的な住まい、明治初期の仕立屋、日本の近代建築の発展に貢献した建築家前川國男の自邸など、戦前の幾つかの住宅を実際に見ながら、空間の広がりや開口部、素材の扱い方、そして暑さ・寒さ対策など、快適に暮らすための「住まいの本質とは何か」について解説した。

○キーワード

江戸時代の民家

民家の構造の変遷

農家の微気候空間

明治・大正・昭和の住宅

前川国男邸



アーキテクツ・ガーデン2012参加プログラム「街歩き・街並編『代官山とヒルサイドテラス』」

- 住宅部会
- 開催日：6月2日
- 参加人数：6名

1969年頃、賑わいのない代官山に、ヒルサイドテラスA棟、B棟が竣工した。それから、30年後の1998年、第7期のヒルサイドウエストが竣工し、今では落ち着いた賑わいのある街となっている。モダン建築でありながら、人に優しく、各棟の外見は一見違って見えながらも、一貫した計画性を感じる。この長い「時間」という概念を取り込んでいる点でも、日本の建物では希有の存在。コミュニティを大切に建設された同潤会アパートの代官山の地に、同様なヒルサイドテラスがあるのも不思議ではないかもしれない。今回の街歩きではヒルサイドテラスを紐解きながら、「時間」と共に変わった代官山周辺を歩いてみた。

○キーワード

江戸の境界と三田上水/用水

ヒルサイドテラス

代官山と猿楽町

同潤会代官山アパート



学び舎見学と座談会



東京海洋大学の歴史を訪ねる

H24.07.07(土)

地域の中で静かに時を刻む東京海洋大学の構内には、重要文化財である明治丸の他にも、4つの登録文化財の校舎が残っています。それぞれの学び舎を巡りながら、越中島という土地でどのように歴史を刻んできたかを振り返りたいと思います。また。座談会では、ここで教鞭を取られた2代わたるお二人の先生にお話を伺う予定です。



明治丸
(重要文化財)



2号館(昭和8年) (登録文化財)



1号館(昭和7年) (登録文化財)

第2観測所 (登録文化財)
(明治36年竣工：
三橋四朗設計といわれている)

第1観測所 (登録文化財)
(明治36年竣工
三橋四朗設計といわれている)



定員40名 無料
要予約(メールのみ受付)

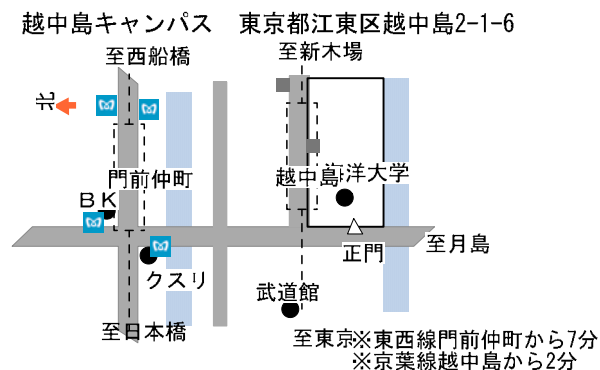
申し込み先：
tanabata@tumugu.jp

13:50東京海洋大学
越中島キャンパス正門前集合

14:00～ 学び舎見学

15:30～ 座談会

場所：東京海洋大学越中島
キャンパス1号館 111号教室
庄司和民・東京商船大学名誉教授
庄司邦昭・東京海洋大学名誉教授



主催：(社)日本建築家協会
関東甲信越支部城東地域会
協力：(社)日本建築家協会
関東甲信越支部保存問題委員会

※当日緊急連絡先：090-1817-8883

アーキテツガーデン 2012 参加プログラム レポート

状況・体験・思い

～改めて東日本大震災から何を学ぶか・地域の建築家からの報告

主催：(社)日本建築家協会関東甲信越支部 世田谷地域会

後援：世田谷区

日時：2012.06.23（土）9：30～12：30

場所：成城ホール集会室 D（世田谷区砧総合支所内）

参加費：無料

参加者：17 名（JIA 会員 12 名＋一般 5 名）

パネリスト：原 昭夫（都市計画家・地域プランナー、自治体まちづくり研究所）

笹本 修（世田谷区危機管理室 災害対策課長）

青野達司（JIA 建築相談前委員長 世田谷地域会）

上遠野公一（JIA 茨城地域会）

郡山貞子（JIA 災害対策委員会副委員長 世田谷地域会）

コーディネーター：金山真人（JIA 世田谷地域会）

第一部では、原昭夫氏の特別報告「大地震に備えて～防災コミュニティとまちづくり」、続いて JIA 会員から被災地での支援活動や、現地での被災体験の報告が行われ、第二部では区の災害対策課長の笹本修氏から問題提起をいただき、私たち建築家が今後の防災にどのように寄与できるかを考えてみました。

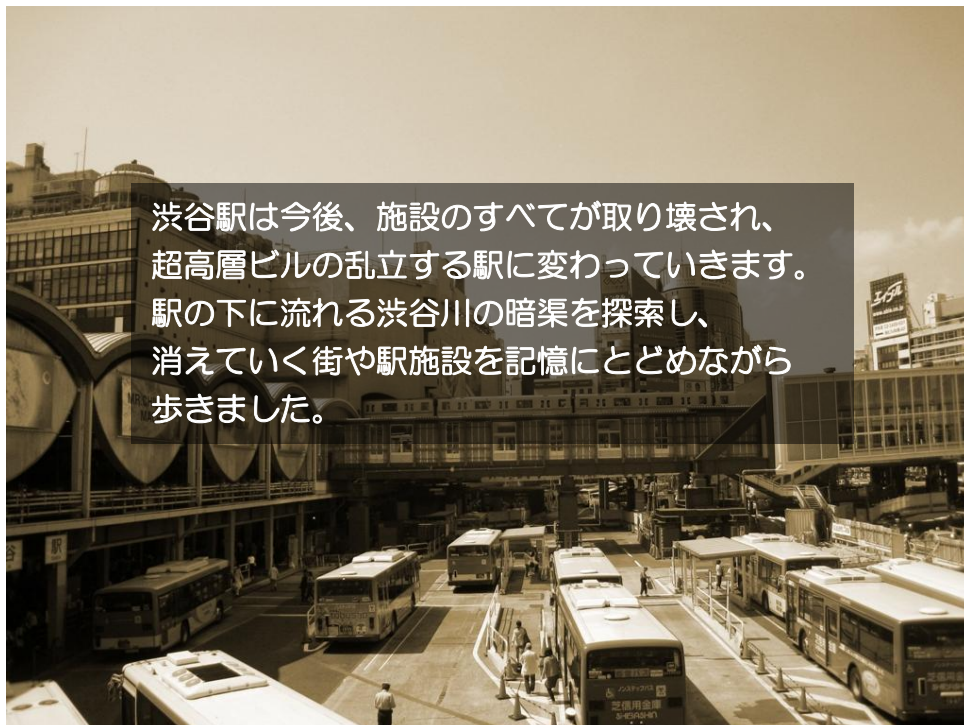
まず原氏からは陸前高田市での復興支援の経験を踏まえて、コミュニティを維持しつつ復興することの重要性が説かれ、平時においての

防災活動はコミュニティづくりの有効な手段でもあると示されました。郡山氏からは亘理町での応急危険度判定、名取町での罹災証明のための調査活動の様子が伝えられました。仙台市で建築相談を行った青野氏からは、支援体制の立上りにやや手間取ったことが反省点として示され、茨城で震度 6 強の被災を体験した上遠野氏からは、外部とのコミュニケーションの断絶の状況や、文化財の被災状況把握が遅れがちであったことが述べられ、応急危険度判定で「危険」と判定されその後公費解体に移行した例がいくつかみられたことから、保存の視点からの対策が今後の課題としてあるのではないかと指摘がなされました。

第二部では笹本氏が『「死なない」「怪我をしない」「火を出さない」～最も重要な災害対策とは』と題して問題提起され、各戸の耐震化が前提とした上で、揺れそのものは死因の 1～2 割で大半はその後の事象（火災、倒壊、津波など）によるものとの調査結果を示され、いわゆる二次災害への対処が災害対策の要点と指摘されました。

今後の防災に向けてのディスカッションを通して、平時から活動しそれを日常的なこととして継続してゆくことが非常に有効な防災対策に繋がってゆくのではないかと、私たち建築家はそうした日常的活動の中にも自ら役割を見出してゆくべきではないか、という共通認識が得られたように思います。

私たちは、大きな変革を迎えている渋谷駅のトレッキングを行いました。



6月30日(土) 13:30~16:00 約2時間の街歩き
参加人数：一般22人、会員11人 合計33人

ルート：渋谷駅集合 → 駅の下に流れる渋谷川暗渠探索
→ 再開発で街区が超高層に変わる桜丘地区
→ 渋谷川親水公園計画地



渋谷区民、チラシ掲示を見た一般の方、学生さんなどに参加いただきました。

自分の街を熟知するために、これからも「渋谷探索トレッキング」を続けていきます。

子ども空間ワークショップ 「角材とジャンボ輪ゴムでまちをつくろう」

- 主催：JIA神奈川地域会 （テレビ神奈川主催「秋じゃないのに収穫祭」に合わせて開催）
- 日時：平成24年6月2日（土）9：30～17：00
- 場所：象の鼻パーク 神奈川県横浜市中区海岸通り1丁目
- 参加者：19名（未就学児～小学5年生まで）とその保護者
- 参加ファシリテーター：17名
- 作成棟数 9棟

子ども空間ワークショップ

子どもたちが、2種類の角材と大きな輪ゴムを使って「自分たちの夢の家」を造り、それぞれの家ができあがるとそこにひとつのまちが完成するというプログラムです。

地産地消を掲げた、tvk主催の「収穫祭」は天候にも恵まれ、多数の来場者がありました。なかでも公園の中央で少しずつ出来上がっていく子どもたちの家は、多くの参加者と見学者を集めました。

このプログラムに参加した子どもたちは建築家という職業を知り、スケッチや共同作業を通して、造形の喜び、完成した空間内部の楽しさに触れ、町並みを意識することができます。何よりも笑顔で作業し、少し誇らしげに帰っていく子どもたちの姿が、今回のプログラムの成果を物語っていると実感できました。

AGに掲げた「建築家はともだち」というタイトルどおり、参加した子どもたちやその保護者にとっても、地域の建築家との共同作業の中でのふれあいによって、こうした活動がより、コミュニティーアーキテクトとしての地位の確立に効果的であると考えます。



9棟が完成し、公園に町並みが形成された

1 連続建築相談会 日時 2012・0611 ～ 0615(5日間) 場所 JIA館 応接室
内容 15組の相談者に対応した。 そのうち数組がセミナーに参加した。

2 シンポジウム
タイトル 建築家が取り組む建築相談 「トラブルを未然に防ぐために」
開催担当組織名 関東甲信越支部建築相談委員会・首都圏建築相談室
開催日 2012年6月30日 場所 東京都中央区京橋2-5-18 京橋創生館 AGCstudio
後援 東京都消費生活総合センター 講師 4名

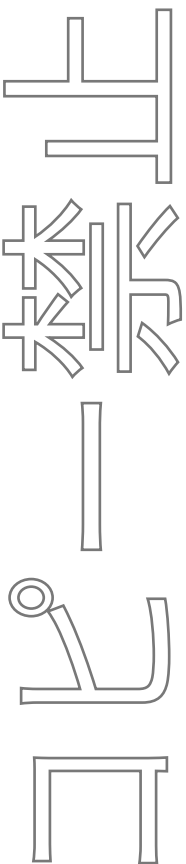
内容 参加者54名（JIA会員18名 会員外建築関係者4名 都消費生活総合センター相談員約4名、弁護士4名、一般市民23名 横浜大会講師招待1名）
欠陥住宅被害者が講師として赤裸々な経験を語ったところ、第2部で多くの参加者が意見を述べた。 市民参加型のセミナーが実施できたと思えた。 市民からの意見の中には、これから社会制度化してもよいと思われるようなものもあった。JIAが訴えるより、一般市民が叫ぶ事に意味があるのではないかと感じた。



セミナー会場の状況。



会場を無償提供していただいたAGCの
ガラス商品説明(全体のうち30分程)



新宿プロムナード展「建築家による美術展」 2012年アーキテクト・ガーデン報告 ミケランジェロ会 5月26日～6月23日

会員11名が25点の絵画、写真を展示した。

新宿駅南口から都庁に向かう地下道（新宿プロムナード）に展示し、通りすがりの多くの市民に建築家の絵画などを見ていただいた。

氏 名	画 題	種 別
阿部一尋	横浜開港資料館、横浜港	水彩
今井陸之	横浜港	水彩
亀井天元	クイーンの塔（横浜税関）	水彩
河田新一郎	バンクーバー・ダウンタウンの街並、 ギヤスタウン・蒸気時計、 ブリティッシュ・コロンビア大学 トーテムポール	水彩
桑野 進	秋田・田沢湖町草 家住宅、 インドネシア・北ニアス島 高床式住居、 京都・南丹市美山町 かやぶきの里	版画
菅 貞雄	山荘にて、ドール	水彩
立石博巳	向島の料亭等	写真
田中 桂治	小諸秋色、馬籠にて	油、水彩
富安秀雄	与論島の海、南大沢の春（１）、南大沢の春（２）	水彩
半谷良男	観覧車のある街、井の頭公園	水彩
林 正樹	裾野の秋、散花（御苑の桜）、眠れる車中の美女	水彩



『まち並みウォッチングin上田』

主催: 社団法人日本建築家協会関東甲信越支部 長野地域会 JIA長野県クラブ

開催日: 2012年 6月23日(土) 13:30~18:00

24名参加

■上田市は、明治の後期から昭和初期までの、日本の主要輸出産業である綿糸・蚕種の生産地として繁栄してきました。(株)笠原工業、信州大学繊維学部、上田蚕種株式会社の諸施設が、経済産業省選定の「近代産業化遺産」に指定されるなど、明治・大正・昭和の産業を物語る建築物が数多く残っています。また、産業の発展と共にハイカラな文化も根付き、良質な洋館建築が中心市街地街地に点在しています。



《木造5階建繭倉》

■(株)笠原工業では、木造5階建ての繭倉庫、長野県に現存する最も古いRC建築の繭倉庫、迎賓館として昭和天皇もお立ち寄りになった常田館の建物を笠原会長にご説明を頂きました。繭倉庫は、大量の繭を貯蔵するべく考え抜かれた建物で、極めて細い柱梁の必要最小限の軸組みで構成され、落とし板構法により面剛性を確保しながら、建物保護の為に施された漆喰と雨除けの庇が特徴です。松代地震にも耐え現存しています。RCの繭倉庫では、力強い構造体に引き込まれ、常田館では、迎賓館として贅を尽くした建築を堪能しました。



■上田蚕種共同組合の事務棟を見学させて頂きました。現在では僅かな生産量ですが、全国で2箇所、現在でも蚕種(蚕の卵)を出荷し、日本の蚕糸業・近代産業文化を守る貴重な会社です。見学した事務棟は木造の大きな建物で、特に2階の畳敷きの大広間は、冠婚葬祭・社員教育、社員厚生・大宴会などあらゆる用途に使われたそうです。往時の写真を拝見しながら、日本の主要産業であった蚕糸業の隆盛が忍ばれました。

←《上田蚕種共同組合 手塚社長の説明》



《信州大学繊維学部講堂》

■信州大学繊維学部では、木造の講堂、レンガ造の旧貯繭庫、RC造の旧研究棟、八角形のユニークな守衛所の建物を見学し、信州大学の職員の方から講堂の設計図を始めとした貴重な資料を準備して頂き、丁寧な説明を受けました。今でも卒業式や学会の会場として講堂が建設当時の機能のまま使われ、赤レンガの旧貯繭庫が開校100周年を機に資料館として公開されるようになったのは喜ばしいことです。

■その後、ヴォーリス設計の保育園、旧医院の洋館尖塔アーチと赤い塔の新参町教会、石井鶴三資料館、飯島商店の洋館建築などを、地元建築家JIAの保存問題委員OBとして、上田市の歴史建築を熟知している依田さんの説明を受けながら見学し、4時間半に渡る充実したウォッチングを終えました。



《新参町教会》

□現在では化学繊維に押されて昭和初期までの隆盛はありませんが、かつての日本をリードした近代産業の遺産と文化が、上田には数多く残されていました。近年のクラフトブームで絹が見直され、信州大学繊維学部もナノテクノロジーや最先端の繊維研究が注目されています。近代産業遺産の活用と共に、新たな産業・観光の舞台として、上田が更に魅力的な街に育って欲しいと思いました。

「めぐろの建築 3 団体による気仙沼市震災復興提案」展

「めぐろの建築 3 団体による気仙沼市震災復興提案」展

展示期間：2012 年 7 月 2 日（月）～6 日（金）

9:00～17:00

展示場所：目黒区役所 総合庁舎 1 階 西口 ロビー

目黒区上目黒 2-19-15

共 催：「めぐろ気仙沼まちづくり会議」

社団法人 東京建築士会目黒支部

一般社団法人 東京都建築士事務所協会目黒支部

社団法人 日本建築家協会関東甲信越支部目黒地域会

「目黒区」

「目黒区住宅・街づくりセンター」



未曾有の津波災害を引き起こした東日本大震災、めぐろ「さんま祭り」のご縁で友好都市関係にある気仙沼市も甚大な被害を受けました。1 年 3 ヶ月の月日が経ちますが、未だ被災地では瓦礫の撤去は済んだものの復興の兆しは見えておりません。

昨年 9 月、目黒区の建築関係 3 団体は目黒区とも連携して気仙沼市復興支援のため「めぐろ気仙沼まちづくり会議」を立ち上げました。現地調査を行うと共に「目黒区住宅・街づくりセンター」でのまちづくり活動の経験を活かし、「人工地盤」による気仙沼市震災復興提案を作成、現地において二度にわたり説明会を開催、また今年 6 月 9 日～11 日にも第 2 回の現地調査を行ってまいりました。

私たちは今後も継続的に気仙沼市のまちづくり支援を行ってゆきたいと願っており、目黒区に於いても同提案の展示会を開催し広く目黒区民の皆様にもご覧いただきご理解とご支援を頂きたいと考えております。

デザイン部会主催

UIA東京大会2011の成果(出版)→展開

「3.11とグローバルデザイン出版記念トーク」

■6月8日(金)、JIA館 建築家クラブ

■パネラー:長島孝一氏、新居千秋氏、松原弘典氏、林昭男氏、大野二郎氏、渡邊研司氏

コメンテーター:内山節氏(哲学者・立教大学教授)

進行:連健夫 ゲスト:佐藤俊一氏(NPO美しい住い倶楽部代表)※印税の寄付先

■40名参加 被災地、いわき市豊間地区のみんなの家づくりワークショップなどの活動

■「3.11とグローバルデザイン」日本建築家協会デザイン部会編著(鹿島出版会)2400円+税



3・11とグローバルデザイン

世界建築会議からのメッセージ

3.11 and Glocal Design

A Message
from the UIA

日本建築家協会・デザイン部会 編著

私たちが求めるグローバルな建築は時代を超えて
前向きに生成的な価値をもつもの……長島孝一
本当は力があるのに行動しない人を刺激して
覚醒させるのも建築家の役目であり、そういう意味で
建築の構築する力を信じている……新居千秋
これはグローバルなのか、あるいはローカルのアプローチなのか。
普遍化すること、想定外であると認め、個別解として対応すること、
ときにそういう姿勢も大事……チョー・ミンシク
「精度のない」「最終形のない」「押しつけない」建築を
グローバルな建築と言った方がいいかもしれない……松原弘典
「専門家」は、あまりそこに長くいてはいけない……チャン・トーマス
「関係」をだれかが代替することでは、……内山節
本当はデザインというものはないのではないか……連健夫
いまや、設計の条件は与えられるものではなく、つくっていく……連健夫

鹿島出版会 定価(本体2400円+税)



『エコハウスセミナー』

主催：社団法人日本建築家協会関東甲信越支部 長野地域会 JIA長野県クラブ

開催日：2012年 6月11日(月) 13:00～17:00

■環境モデル都市 飯田市にある3件のエコハウスを巡り、それぞれの考え方や特徴を学び、自然エネルギーや地域材の利活用に対して建築家の果たしていく役割を考えます。

23名参加

1、「リンゴ並木のエコハウス」・講師 新井建築工房 新井 優 氏



《りんご並木のエコハウス》



■環境省21世紀環境共生型住宅モデル整備事業による建物で、2011年度JIA環境建築賞優秀賞を受賞。一般的な郊外田園型エコハウスではなく、都市型エコハウスとして狭小敷地かつ不十分な日照などの悪条件を建物構成で克服している。子世代向け住宅ではクールチューブが埋設された三和土土間床蓄熱、ヒートチュームニー、植生メッシュ等動力に頼らない伝統的エコ技術を中心としている。親世代向け住宅ではハイブリッドOMソーラーをメインに太陽光発電、熱交換機、省エネ機器利用など現代版エコ技術が利用され、現在考えられるエコ技術の集大成で、それが建築計画と一体となった優れた建物となっている。

2、「県産材住宅モデルハウス」・講師 大蔵建設 大蔵社長

■県内OM施工工務店7社の、県林務部の補助事業によるモデルハウス。水平構面倍率などを実験により確認し、許容応力度計算により3階建てとしている。2階建て+ α のコストで子供用ロフトなどライフスタイルに合わせた使い方ができるローコスト地方型3階建てエコ住宅。OMソーラー、太陽光発電を装備し、土間蓄熱や西日よけルーバー等工夫により高い省エネ性も獲得している。スケルトン・インフィルの考え方も徹底していて、これからの地方型住宅の一つのプロトタイプを示す意欲的なエコ住宅となっている。



《県産材住宅モデルハウス》



3、「風の学舎」

・講師 山法師 事務局 平澤和人氏
木下 光氏

■「NPO法人いいだ自然エネルギーネット山法師」会員の4年をかけたセルフビルドのスローライフ宿泊体験施設。化石燃料ゼロを目指し、エコの伝統技術と現代技術を組み合わせ、建築だけではなくライフスタイル全般を体験するもので、都市、農村の交流にも実績がある。講師の平澤氏は元市職員であり、環境思想・政策などについて詳細かつ広範なデータ・文献を丹念に集め、説得力のある講義をされた。再度JIA県クラブ会員のために講演してもらいたいものである。

←《風の学舎》

ニュースでも話題の省エネ最先端：3方向太陽光パネル 研究施設 — 東京工業大学 環境エネルギーイノベーション棟見学 —

- 日時 : 6月30日(土) 15:30~17:00
- 会場 : 東京工業大学 大岡山キャンパス環境エネルギーイノベーション棟
- 講師 : 東京工業大学 建築学専攻: 塚本由晴准教授／(株)日本設計: 平山浩樹 様
- 主催 : 日本建築家協会(JIA)関東甲信越支部 情報開発部会
- 参加者 : 20名

地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量を約60%以上削減し、しかも、棟内で消費する電力をほぼ自給自足できるエネルギーシステムをもつ、世界でも類をみない研究棟を見学した。

南面／西面／屋上すべての壁面に高密度に設置した4,570枚の太陽電池パネルによる発電と、不足分を補うための燃料電池を組み合わせた複合型の高効率分散型発電システムを導入し、かつ、高効率な設備の導入

とその効率的運用による省エネルギー化を徹底することで電力の自給自足を実現している。さらに、地震エネルギー吸収ブレースを籠のように建物外周に配し、直下型大地震にも耐えうる高い耐震性能を有している。JIA会員以外にも多くの参加があり、有意義な見学会だった。



省エネビル見学 ― 内田洋行 新川第二オフィスビル ― ～LED 照明とセンサー連動の制御システム、省エネ効果と快適性を両立～

- 日時 : 6月29日(金) 16:30～18:00
- 会場 : (株)内田洋行 新川本社／新川第2オフィス
- 講師 : (株)内田洋行 執行役員 平山信彦 様／Change Working Consulting Group 野間操 様
- 主催 : 日本建築家協会(JIA)関東甲信越支部 情報開発部会
- 参加者 : 8名

最適なオフィスレイアウトを考える際に、照明は大きな要素となるという考えのもと、LEDの採用と同時に、制御システムも開発された。空間の用途やデザインに適した明りを提供するためである。

また、アルミフレームによる空間構成システムにLEDモジュールをビルトインすることでインテリアデザインと一体となった照明環境を作り出している。

築40年経過し、リノベーションを行ったビルと新築のオフィスの両方において、働きやすい環境づくりを目標とした結果が省エネにもつながっている事例を見学した。大変興味深い事例であった。



アーキテツ・ガーデン 2012 参加プログラム 「甲府駅南口周辺地域修景計画を考えよう」

主催：JIA 山梨クラブ 開催日時：平成 24 年 6 月 16 日～24 日 11：00～17：00 場所：甲府市中心街オリオン通り

参加者：地域会会員 4 名、一般参加者約 130 名

甲府駅周辺は、北側の再開発が主要街区と建築群の完成を迎え、県民の関心は南側に移ってきました。この地域では、県庁防災新館や市庁舎の鉄骨が建ち上がり始めましたが、これらと駅との間、とりわけ県都の顔ともなる甲府駅南口の修景計画がまとまっていません。昨秋県は南口修景計画の試案を示しパブリックコメントを求めました。

私達 JIA 山梨クラブはこの案を県民とともに検証し、多くの方々の意見を今後の修景計画にどう生かしていくか、県民と語らう場を設けました。期間中、多くの方々と熱心に語らう中で様々な感想や提言をいただきました。これらを県都景観や今後の整備計画に反映させよりよい県都整備の一助となる活動に結び付けたいと考えています。

会場の JIA 紹介パネルや昨年の UIA 東京大会概要の展示に関心を示した方も見受けられました。 (文責 長田孝三)



アーキテツ・ガーデン参加イベント：港地域会情報：MAS セミナーNo.7

「日本の街並はなぜ美しくないのか」（年間テーマ）

「建築家は街にどのように関われるか」（今回テーマ）

部会長：大倉富美雄

大きなテーマ。それだけに誰にとっても語りがいがあり、事実、洋の東西、江戸から現代まで、政治から経済にまで広がった。今回はメンバー数人が語りべ（今井、大倉、鈴木、連）となり、それを進行役（小倉）が会場の意見も加えてまとめる形で、最初に各人の思いを述べ、次に起承転結で進めるという新味を狙った。

「市民の視点や価値観を加味した街づくりが必要」で、そのためには市民が設計プロセスに「参加すること」が大事（連）、成田空港から都内に入る時に感じる「がっかり感」はどこから来るのかを問い（鈴木）、明治維新と太平洋戦争によって、外部からの模倣と圧力で創り上げられたメンタルが造った街並（大倉）、高級マンションに一人で鍵を開けて入る子供の例から、インフラが出来ても血が通わなければ意味が無い。「都市の日本人は仮物の中に住んでいる」（今井）と、最初から全方位の展開。

以下、発言者名を飛ばし会場からの意見も含め列挙する。

住民の参加を得て進めるプロセスを重視

起／（良くないところ）：経済効率優先、文化の解体、フェイクの文化、所有の意識が強すぎる、コミュニティが無くなっている。

承／（いいところ）：あいまいなところが大切。協力して何かをする力がある。感性は極めていい。

転／（創る技術について）：自然素材を活かし時間をかけたものは良い。可否の自己判断もなく、決められたことに従い過ぎる、（本当の）建築家でない人たちが地域開発や街区を設計している。建築家は消費者に対するアピールが足りない。

結／（どのように関われるか）：、ホンモノ志向で街づくりを。そのためにはホンモノを見極める教育と社会の仕組みを。超高令化、人口減下の地域住民と良く語り合い（プロセスを重視）、それを行政に働きかける。「建築基本法」の視点も取り込んでゆく。

このテーマは日本人の根本問題に関わると共に、その分、ある意味で尊大とも言える問題でもある。しかしそのことが、現代日本社会が追い詰められているあらゆる分野の問題の解決要求からし

て、誰にとっても放置して置けないのも事実であり、その観点からも真剣な議論が交わされ U チューブでも配信された。

この後ワイン・パーティが開かれ、参加者の懇談が遅くまで続いた。（6 月 30 日：JIA クラブにて）

「処士横議の場」を再活性化

続けて、メンバーの大沢悟郎氏が移転都合で他地域会に移籍することとなり、有志による歓送会が建築家会館内にある「バー」で行われた。休止されていたのを建築家クラブ活用部会の稲垣雅子さんの、再生して行こうという活動に協力する形で開催された。大沢氏の父上もこのカウンターで語らったとのことで、もともと前川國男が「処士横議（処士＝民間にあつて仕官しない人：「意見のある者が身分を問われず、自由に議論する」という故事による）の場」としてこのバーを作ることを目指したという。夕日に映える緑が身近に見え、日暮れとともにメンバーの興に乗る姿もここならではと思わせ、よい企画になったと自負している。

大沢氏も当地域会への想いを深めてくれ、今後とも案内には参加してくれるとのことで、歓送会でもある一夜となった（前記のワイン・パーティも大沢氏の努力による）。



ワイン・パーティ後の関係者たち

パーティー後の大沢悟郎氏歓送会（建築家会館バーにて）



アウェアネス 新たな気づき ——感じて、考えて、発信する

建築家は、日々の実務から学ぶことはもちろん、社会の変化や将来に向けて自ら学び続けることが求められています。また、3.11以降、建築家の役割、目指すべきものにも変化が現れることでしょう。そうした意味でJIA建築セミナーには大変意義深いものがあるといえます。私たちは、JIA建築セミナーの伝統を引き継ぎ運営委員のみなさんとともに、新たな視点でリードします。

莫大な情報に出会いながら、実際には無意識のうち見過ごされ、通り過ぎてゆきます。その中にある「アウェアネス=新たな気づき」の発見が、新しい次の展開につながります。社会の変化を受けた建築の可能性を探るためには、参加する方々が、日常身のまわりのアウェアネスを大切に自分なりの新たな発見をしてほしいと思います。そのために私たち自身が、共に学びたいテーマを見つけ、受講生のみなさんといっしょに体験し、感じ、考え、話します。現地で見学したり、体験したりすることで、実感をもったより深い議論につながると考えます。JIA建築セミナーでなにかを発見しましょう。

JIA建築セミナー趣意書

人の生きる環境の形を決める建築家は、常にその社会的責任に対する意識を新たに、技量の継続的向上に努めなければなりません。建築家とは、「なる」ものではなく、むしろ「なり続ける」努力によって成立する職能なのです。

私たち、日本建築家協会の使命の一つは、会員相互の交流と切磋琢磨をつうじて、こうした自己研鑽の機会を広げることにあります。そうした機会は、会員にはもちろんのこと、未だ会員になっていない若い方々に対しても開かれなければなりません。

現在の日本の建築教育はほとんど大学に任されており、また、その期間が限られているためあって、建

築家としての意識と見識を養うためには、甚だ不十分な域にとどまっています。そして、そこに学んだ若者が卒業して一旦社会に出ると、自己研鑽を積み続ける機会に恵まれないのが通例です。

そうした状況に臨み、私たちは会員及び会を支援して下さる各界の知財リーダーたちの蓄積を、建築家への道を歩み始めた若い方々に受け渡し、建築家に「なり続ける」機会の一つを提供するために「JIA建築セミナー」を開設しました。

このセミナーは、1978年以降の歴史を誇っております。35年目にあたる2012年度も、長年の間に培われた良き伝統を受け継ぎつつも、時代の状況に応じた新風を織り込んでセミナーが開催されますので、一層のご理解とご賛成をお願いいたします。

JIA建築セミナー 2012

実行委員長 **工藤和美** Kazumi KUDO
1983 IAESTEスイス研修留学
1985 横浜国立大学建築学科卒業
1986 シーラカンスを共同で設立
1991 東京大学大学院博士課程修了
1998 シーラカンスK&Hに改組
現在 代表取締役 東洋大学建築学科教授

堀場弘 Hiroshi HORIBA
1983 武蔵工業（現東京都市）大学建築学科卒業
1984 東京大学大学院修士課程修了
シーラカンスを共同で設立
1998 シーラカンスK&Hに改組
現在 代表取締役 東京都市大学教授

実行委員 **石川静** (NTTフジテレビズ) 建築家
海老原靖子 (久米設計) 建築家
川辺直哉 (川辺直哉建築設計室) 建築家
前田道雄 (アーキプロ) 建築家
宮晶子 (STUDIO 2A) 建築家
森清敏 (MDS 一級建築士事務所) 建築家
安田博道 (環境デザイン・アトリエ) 建築家

JIA建築セミナー2012 | スケジュール | 2012年7月7日 - 2013年3月吉日

開講 7月7日[土] 17:00 - | SHIBAURA HOUSE (株式会社設計、広告製版社運営) にて
集合!! 2012年セミナー生・OB・講師の皆さん

PROJECT 1 ソーシャルデザイン
ソーシャルデザインとは何か。他分野で活躍する方々とのワークショップを通じて、建築に求められる、社会との多角的・継続的な関わり方を学びます。

1 7月14日[土] 14:00 - | **ワークショップ「ソーシャルデザイン入門/おカネの仕組みとヒトを動かす企画(仮)」** | 広瀬都 (トーンアンドマター代表、東北大学大学院非常勤講師)
2 7月21日[土] 14:00 - | **ワークショップ「ソーシャルデザインの話をしよう」** | 兼松佳宏 (greenz.jp編集長、太刀川英輔 (INOSIGNER代表)
3 7月24日[火] 19:00 - | **「新しいローカルイノベーション」** | 田村大 (東京大学i.schoolディレクター、博報堂上席研究員)

PROJECT 2 The JAPAN
話題の浅草文化観光センターを見学し、隈研吾氏の講義を聞きます。次に、無名の職人による日本の民衆的工芸品「民芸」の調査・収集で知られる柳宗悦の日本民芸館(1936年)と木造の自邸を見学し、日本を再考します。

4 8月4日[土] 13:00 - | **「浅草文化観光センター」(隈研吾設計)の見学**
5 8月7日[火] 19:00 - | **「演題未定」** | 隈研吾 (建築家、隈研吾建築都市設計事務所)
6 8月土曜日 | **日本民芸館と柳宗悦自邸の見学・講義** | 杉山享司 (日本民芸館学芸部長) | 「バーナード・リーチ展」(8月19日 - 8月26日)開催中

PROJECT 3 人間を取り巻く新しい環境
情報空間は拡張するとともに実空間との重なりを強め、私たちの行動や認識を支援し、デザインがコントロールする領域を変化させています。拡張現実(AR)の最先端を切り開く研究室を訪ね、一線で活躍するデザイナー・プログラマーから現在進行形の話聞きます。

7 9月15日[土] 14:00 - | **「Augmenting Space & Humans: 実空間と人間の未来を考える」** | 厩本純一 (東京大学大学院情報学講座教授、ソーニャコンピュータサイエンス研究所副所長) | **東京大学駒場リサーチキャンパスの厩本研究室を訪問**
8 9月18日[火] 19:00 - | **「デザインエンジニアリングの現場から」** | 田川欣哉 (デザインエンジニア, takram design engineering)
9 9月25日[火] 19:00 - | **「コンピュータ・デザインと建築——環境シミュレーションやコンピュータ・サイエンスを利用した新しい建築デザイン」** | 濱野慶彦 (エーエラゴ(AALab)代表、東京理科大学建築学科非常勤講師)

PROJECT 4 北海道の建築
北海道に拠点を置く五十嵐淳氏の自邸(傾斜の山)とアトリエなどを見学し、お話を伺います。昨年日本建築学会賞を受賞した「岩見沢駅」、60年代の名作「上野野郎」などの見学も企画。北海道の厳しい自然環境に建つ建築を体験し、風土に根ざした建築のあり方を考えます。

10 10月(調整中) | **見学・講義** | **五十嵐淳** (建築家、五十嵐淳建築設計(企画中))
11 10月(調整中) | **見学・講義** | **西村浩** (建築家、ワークビジョンズ(企画中))

JIA建築セミナー2012 | 募集案内 | 2012年7月7日 - 2013年3月吉日開催 CPD申請中

定員 40名
受講資格 当セミナーに興味のある方、若手設計者ほか
講習期間 2012年7月7日 - 2013年3月吉日
見学会等の集合場所・時間ほかは、追ってお知らせします。
会場 JIA館(築地町)
住所 東京都渋谷区神宮前2-3-18 | **TEL:** 03-3408-8291
交通 地下鉄銀座線外苑前駅 徒歩8分 / JR千駄ヶ谷駅 徒歩10分 / JR原宿駅 徒歩12分
受講料 一括払い: 140,000円(分納、ご相談可)です。
見学・宿泊等の交通費、食費等は実費となります。

PROJECT 5 建築家の現在
建築の価値が多様化する中で、常に注目を集める建築家のデザインに対する姿勢と仕事への取り組み方から、これからの建築家像を探ります。

12 10月21日[日] | **軽井沢見学・設計の現場で考えたこと** | 堀部安嗣 (建築家、堀部安嗣建築設計事務所)
13 10月30日[火] 19:00 - | **「可能性のデザイン(仮)」** | 谷尻誠 (建築家、SUPPOSE DESIGN OFFICE)
PROJECT 6 生きられた家
阿部勤氏、山本理顕氏によって1970年代80年代につくられた自邸を含む住宅4件を見学。その場所に身を置き、生きられた時間を感じながら、当時考えたこと、時間を経過して考えること、現在考えていることなどをお聞きの、貴重な機会です。

14 11月4日[日] | **「美しヶ丘の家」私の家(阿部氏自邸)の見学(阿部勤設計)**
15 11月4日[日] | **「心との関わり」阿部勤** (建築家、アルテック) | **阿部邸にて**
16 11月17日[土] | **「GAZEBO(山本氏自邸)」「スタジオステップス」の見学(山本理顕設計)**
17 11月17日[土] | **「地域社会圏」山本理顕** (建築家、山本理顕設計工場) | **スタジオステップスにて**

PROJECT 7 ありふれた木造——木造建築のつくられ方
エコロジーの浸透や材料技術の発展にともない、古くて新しい素材・技術である木材の利用が進んでいます。一方、普及した木造建築は、古今東西において人々の生活に溶け込んできた、安価で身近な素材・技術でもあります。様々な木造建築を実践してきた構造家と建築家の視点から、木造の可能性を見直します。

18 12月(調整中) | **長谷木記念館(内町敬敏設計)ほか、木材展示場の見学**
19 12月(調整中) | **「古今東西の建築に学ぶ、新しい木造の世界」** | **対談: 山田憲明** (構造家、山田憲明構造設計事務所)、**中山章** (建築家、中山章建築研究室、東洋大学建築学科非常勤講師)

PROJECT 8 東日本大震災後の現在
東日本大震災から1年以上経過しているが、断片的な情報は入ってくるものの正確な所は解っていません。宮城県(平島浩之氏)及び福島県(阿部直人氏)で活動する建築家、計画家の立場からの大月敏雄氏、逃げた地帯を発表した日建設計有志、それぞれの立場から、東日本大震災後の「今」を伝えます。

20 2月5日[火] 19:00 - | **「宮城と福島の問題点——現地からの提言」** | **対談: 手島浩之** (建築家、都市建築設計集団/UAP)、**阿部直人** (建築家、ARCHI STUDIO 阿部直人建築研究所)
21 2月19日[火] 19:00 - | **「復興と住まい」** | **大月敏雄** (東京大学大学院准教授)
22 2月23日[土] 19:00 - | **「逃げた地帯」の意味(仮)」** | **羽鳥達也** (日建設計)

「最終回特別公開講座」
詳細は追って、お知らせ致します。
23 2013年3月吉日 | **「演題未定」** | **横文彦** (建築家、横総合計画事務所)

申込方法 受講希望者は氏名・住所・連絡先(TEL/FAX/E-mail)を明記し、事務局までFAXか、郵送にてお申込下さい。追って、ご連絡いたします。
なお、都合により変更になる講座もありますので、予めご承知置き下さい。
主催 社団法人 日本建築家協会関東甲信越支部
企画運営 社団法人 日本建築家協会関東甲信越支部 JIA建築セミナー実行委員会
JIA建築セミナー事務局 (担当: 佐藤由子)
申込・問合せ先 社団法人 日本建築家協会関東甲信越支部 JIA建築セミナー事務局
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA館4階
TEL: 03-3408-8291 | **FAX:** 03-3408-8294

アーキテクツ・ガーデン 2012 参加プログラム

JIA 杉並土曜学校 2012 年度第 1 回

「家族の家から地域のイエヘーシェアする暮らしからみえるもの」

2012 年 6 月 9 日 (土) 18:00-20:00 あんさんぶる荻窪

講師：山口健太郎 (有) 縁蔵代表 / 大橋徹平 (株) ジープレイス代表



左が山口健太郎さん、右が大橋徹平さん

2012 JIA suginami 杉並土曜学校 杉並の未来を描く

アーキテクツ・ガーデン2012建築展 参加プログラム

家族の家から地域のイエヘー

ーシェアする暮らしからみえるものー

2012年度土曜学校 第1回 CPD認定プログラム申請中
家族の家から地域のイエヘー
ーシェアする暮らしからみえるものー

日時：2012年6月9日(土)
18:00~20:00

会場：あんさんぶる荻窪 4階教室
定員：60名 参加費：500円

主催：(社)日本建築家協会関東甲信越支部 杉並地域会
後援：杉並区

事前にメール又は FAX でお申し込み下さい。(詳細は裏面をご覧ください)

2012年度 JIA杉並土曜学校

杉並の未来を描く

5年目の土曜学校は、「区民と共に学ぶ」から一歩すすんで、「区民と共に杉並の未来像を描く」ことを目指します。講師の方には若手をお迎えし、杉並のこれからを考えます。

第1回 6月9日(土) 家族の家から 地域のイエヘー ーシェアする暮らしからみえるものー	第2回 7月28日(土) (仮) 荻窪駅前広場 開発計画のこれから	第3回 9月29日(土) (仮) 住宅都市杉並 の緑地を考える	第4回 11月17日(土) (仮) 街と祭り	第5回 2013年 1月26日(土) (仮) 杉並の地域 エネルギー計画
--	--	--	------------------------------	---

第1回 家族の家から地域のイエヘー ーシェアする暮らしからみえるものー

日時： 2012年6月9日(土)
18:00~20:00
会場： あんさんぶる荻窪 4階教室
定員： 60名
参加費： 500円

講師： 山口健太郎 (有)縁蔵 代表
大橋 徹平 (株)ジープレイス 代表

コレクティブハウジング、シェアハウス事業などに
関わってこれた若手運営者お二人の活動
と想いをお伺いします。
今や、「シェアハウス」と呼ばれる住まいが急
速に増えつつありますが、「シェアする」暮らし
から何が得られるのでしょうか。現在の社会
における「シェアする」ことの意義とはなんなの
でしょうか。
後半は参加者とともに地域に開いている「いま
あるもの(空き家や空き地等)」の有効活用を
考えるワークショップを行います。

最新情報はJIA杉並のホームページでご確認頂けます。
<http://www.jia-kanto.org/suginami/>

参加申込み受付中!

☐ e-mail : suginami@jia-kanto.org
☐ fax : 03-3220-5593

件名を「JIA杉並土曜学校申込み」とし、
お名前、人数、メールアドレス、電話番号を
明記の上、e-mailまたはfaxでJIA杉並事務局
までお申込みください。

・参加には事前申込みが必要です。定員になり次第、締め切らせて頂きます。
お問い合わせ：JIA 杉並地域会事務局(仮称)
03-3220-5100(個人携帯・メール)

2012 JIA suginami 杉並土曜学校



山口健太郎
埼玉県荻窪市出身 1974年生まれ
明治大学建築学科卒



大橋徹平
東京都杉並区出身 1979年生まれ
都立西高校、横浜国立大学建築学科卒



IT企業に就職し、仕事ばかりの生活を送るが、一
転、コミュニティのある暮らしに切り替え、24
時間365日、公私混同、お世をまじながら、常に
進出、自給、日本一の再帰生活実践者。
シェアハウス・下宿をコーディネートする(株)ジー
プレイス代表。
世田谷を拠点とする「ガチャパン」にもなる金
で、知財特許者の小橋、事務局を担う、NPOコク
ティブハウジング社理事も務める。現在、南三郡の
板根地区に山内、コミュニティ再生・創造支援な
どを行っている。



2012 年度の杉並土曜学校は、年間テーマを「杉並の未来を描く」とし、5つのテーマで開催します。



第1回は、シェアハウス運営やコミュニティ創出活動をされている、山口健太郎さん、大橋徹平さんのお二人を講師にお招きし、今若者を中心に人気の『シェアハウス』について、自ら運営されている事例等をご紹介いただきながら、お話いただきました。また、後半はテーブルごとに、地域のストックやそれらの活用法などのアイディアを出し合うワークショップを行いました。

JIA 杉並地域会 <http://www.jia-kanto.org/suginami/>

千葉県建築展

「 保存・再生・復興 建築から見た 千葉 」

主 催 : 千葉県建築設計6団体連絡協議会
(社)千葉県建築士事務所協会 (社)千葉県建築士会 (社)日本建築学会千葉支所
(社)JSCA千葉 千葉県設備設計事務所協会 千葉県建築家協会(JIA千葉)

作品展示会 : 千葉市美術館さや堂ホール 2012年6月29日(金)～7月1日(日)
「会員作品 + 大多喜町役場 既存棟・増築棟のスタディー模型・設計資料展示コーナー」

見学会 : 大多喜町役場 既存棟・増築棟 同 6月30日(土) 講師: 建築家 千葉 学(東京大学大学院准教授)
「大多喜町役場庁舎を 設計者 千葉学氏とともに」

講演会 : 大多喜町役場 既存棟 議会室 同 6月30日(土) 講師: 建築家 千葉 学(東京大学大学院准教授)
「大多喜町役場庁舎の今井兼次作品から千葉学作品への継続と変遷」



J I A 国際事業計画シンポジウム「外に出よう！建築家」

主 催：JIA国際委員会 + JIA関東甲信越支部
開催日時：2012年6月26日(火) 15:00 - 18:00
開催場所：JIA館1階建築家クラブ

■司会：杉山久哉（JIA国際委員）

■報告：上浪 寛（JIA関東甲信越支部長）

宮川 浩（日建設計執行役員）

西川英治（JIA北陸支部長）

国広ジョージ（ARCASIA 会長）

Marco CORBELLÀ（石本設計）

柳川陽文（日本建築士連合会国際委員長）

赤堀 忍（JIA国際委員長）

「J I A 関東甲信越支部と上海市建築学会との友好協定について」

「日建設計からの報告－日建設計是北京・精華大学と学生を受け入れる協定締結」

「北陸支部の中国・瀋陽での活動」

「海外建築家協会の国際戦略の紹介」

「日本での海外建築家の国際戦略の紹介」

「建築士連合会の国際活動について」

「若手建築家の国際化支援プログラムについて」

UIA大会をきっかけに、この5月にJIA関東甲信越支部は上海市建築学会（ASSC）と友好協定を締結し、JIA国際活動の大きな柱である「若い世代の育成」として、若手建築家の交換プログラムと、国際建築インターンシッププログラムを立ち上げている。

建築界のこれまでの国際活動の報告と今後の国際活動の必要性について議論、会場からの意見交換を行う。

J I Aとして、会員の海外進出を支援することが使命の一つであるにとらえ、「外に出よう！建築家」の第1回を開催、USTREAM配信も行った。

このシンポジウムは日本の建築家が積極的に外の可能性をつかむことを側面支援しようとするもので会員の海外進出のヒントを提供することを目的とし、9月と11月にその続編を開催する。

国際委員会委員長 赤堀忍



JIA 関東甲信越支部 J I A トーク活動報告

- 開催日：2012年6月20日（水）18：30～20：30
- 会場：建築家会館1階ホール
- 主催：関東甲信越支部 J I A トーク実行委員会

概要

毎年4回開催しております企画の中で、第1回分をアーキテクト・ガーデン月間に合わせて開催いたしました。

第1回は、6月20日にデザイナーの原研哉氏を講師に迎え、「HOUSE VISION」-産業の未来を可視化する-をテーマに、ご自身が最近、専門のコミュニケーション・デザインとは別に、興味を持ち始めた、日本の産業の次のかたちをヴィジュアルライズに関して、大変興味深いお話をいただきました。



講師：原研哉氏

本年度の開催は、下記の日程で開催いたします。

第1回：6月20日（水）「HOUSE VISION」-産業の未来を可視化する/講師：原研哉氏（デザイナー）

第2回：9月5日（水）「常識について」/講師：加藤久佳氏（翻訳家・自称：緑林の風来坊）

第3回：10月17日（水）「カオス・シチリ物語」/講師：白崎容子氏（慶應義塾大学文学部教授）

第4回：12月12日（水）「新時代の音楽祭 in チロル」/講師：土崎譲氏（テノール歌手）、ピアノ伴奏：中西るみ子氏



建築家写真倶楽部

部会長：兼松紘一郎

AG 担当：野中 茂

写真談義「時代をリードした建築」

6 月 27 日、JIA 館建築家クラブにて、会員達が自分で撮影したモダニズム建築の写真を展示し、解説を加えながら意見交換を行いました。

全部で 17 作品。モダニズム建築を撮り収め、その建築について何がそのフレームでシャッターを押させたのか、それぞれの想いを語りました。

樹木が大きくなるなどの移り変わりは、時の流れを感じさせるものですが、その中には、今では解体されてしまった名建築や、近くに別の建築が出来たために優れた景観が損なわれたものもありました。



建築は写真という媒体によって、その存在を認識されてきました。私たちは、写真を通してもっと建築が身近だと伝えたいと願っています。

参加者の中からいただいた意見には、'noble' なものを'noble' なままにすることの大切さについてメッセージがありました。私は、感想に気品を感じたのは初めての経験でした。＜久米設計＞

下北沢まちあるき レポート

主催：(社)日本建築家協会(JIA)関東甲信越支部
世田谷地域会

「下北沢まちあるき」は2012.06.09(土)に実施されました。当日はあいにくの雨模様となり、一時本降りとなるなど、まちあるきには厳しい天気でしたが、主催者判断に依り予定通り催行いたしました。

日時：2012.06.09(土) 13:00~17:00

参加人数：14人(地域会員10人、他4人)

参加費：500円(資料代、保険代)

実施行程：13:15 下北沢駅北口を出発

→下北沢駅周辺を探訪

→森厳寺、北澤八幡神社、代沢住宅地など訪ねる

→せせらぎ公園、緑道

→代沢まちづくりセンターにて懇談。

17:00 解散



まず駅周辺の商業エリア、計画道路の予定地、住商混在する路地、周辺では残り少なくなってきた昭和初期の近代住宅、小田急地下化によって出現する地上の空地スペースなどを探訪。地区計画の施行によって変化し始めたスカイラインを背中に、代沢の住宅地へ移動。登録文化財の富士見丘教会、森厳寺、北澤八幡神社、緑道、せせらぎ公園など下北沢の繁華街に連なる住宅地を巡り、時代を超えてつながる風景にふれて歩きました。



雨のため、当初予定のまちあるき行程を30分程度短縮し、まちあるき後の懇談をその分延長して対応しました。

懇談では下北沢が抱えている今日的課題について、映像を用いて解説を行い、まちづくりへの立体的な理解を図ることが出来たかと思います。

参加者からは、解説の内容や添付資料などに関連して、通常のまちあるきと違いまちづくりへの関心を喚起された、などの感想も寄せられ、企画の目的がある程度達成できたかと評価しています。



今後への反省点として、事前の広報の仕方を工夫して参加人数(殊に一般の参加者)の増加を図ること、まちあるきの継続時間を検討して、途中に休憩時間を挟むべきではなかったか、などが挙げられます。



開催日時：公開審査 6月2日（土曜）

一般展示 6月3日（日曜）

今年の第21回東京都学生卒業設計コンクールは、都内27大学31学科から50作品が集まり、6月2日、3日に、例年通り、工学院大学新宿キャンパスのアトリウムにて開催されました。

公開審査当日は、審査員と出品者のやり取りを見ようと多くの聴衆を集め、白熱した議論を見守りました。

今年は、審査委員長に野沢正光氏、同副委員長に佐藤尚巳氏を迎え、吉村靖孝氏、成瀬友梨氏、山梨知彦氏の5名による審査となりました。建築家としてプロフェッショナルな視点により、卒業設計作品に対する様々な議論と評価をして頂きました。

午前中の一次審査では、事前の読み込みに加えて、学生本人による作品説明と質疑による審査。午後には、一次審査で一点のみだった作品の可否を議論し、その二次審査の通過作品を14作品に絞り、三次審査の対象としてステージ上に模型を並べました。

三次審査では、出品者のプレゼンテーションと審査員とのやり取りのあ

と、投票により三賞が決まりました。今年は銀賞が同点により2作品となりましたが、途中で惜しくも落選した作品にも審査委員より一言ずつ講評コメントが寄せられました。

このコンクールは、建築家が環境や社会に対し果たすべき使命を示唆し、学生諸君にもその意義を感じてもらおうべく開催しています。学生諸君にとって一般社会との接点となり、プロの目を通して作品が評価される貴重な機会となるよう、審査員だけでなく20名を超える実行委員のメンバーも、積極的に学生と対話をするよう心掛けています。

今後、コンクールの概要ならびに審査結果と各審査員の審査講評をまとめて作品集として発刊し、各作品の詳述と共に本コンクールの雰囲気を感じ取ってもらうことにしています。これから建築を学ぼうとする若い皆さんや、新たに卒業設計作品を創りだそうとしている建築を学ぶ学生諸君には、大いに参考になるものと思います。

（委員長 三塩達也）



まなびや

JIA アーキテツガーデン 見学会 「記憶に残る学び舎～三田・広尾界隈を歩く」

JIA 関東甲信越支部 保存問題委員会主催 2012年6月9日(土曜日)

◆ 学校の教育理念と建築が結びつき、長く使い続けられている
三校の校舎を見学した。

◆ 参加者: 合計45名(委員を含む) + 事務局1名 ◆

見学校舎

1. **私立普連土学園** 港区三田 午前 10 時から 11 時半

1968 年 現中学校校舎 大江宏設計

1963 年 講堂 大江宏設計

1974 年 体育館 大江宏設計

現中学校校舎を中心に講堂、体育館も含め校内を自由に見学。

2. **私立慶應義塾幼稚舎** 渋谷区恵比寿

13 時から 14 時 45 分

1937 年 校舎 谷口吉郎 + 曾禰中条設計事務所設計

1964 年 講堂 谷口吉郎

2002 年 新体育館・新館 谷口吉生



普連土学園



慶應義塾幼稚舎

3. **渋谷区立広尾小学校** 渋谷区東(当時は豊玉郡渋谷町)

15 時 10 分から 16 時 30 分

1930 年 東京府営繕設計

復興小学校が旧東京市内に建築された時期から、少し遅れて旧市外の渋谷町に建築された RC 校舎。改築か保存かで 10 年掛けて話し合いの上、昭和 62 年に改修して保存することになり、今も地域のシンボリックな建物となっている。2 年前に赴任したばかりの現校長は見学者全員に竣工当時の記念誌のコピーを配布して、保護者も生徒も大変よい学校であると語ってくれた。

◆ 解散後、自由参加で 17 時から 19 時まで懇親会



広尾小学校



アーキテツ・ガーデン 2012 「二人の外国人建築家／タウト＆レーモンド in 群馬・高崎」

主催 JIA 群馬地域会 CPD 認定プログラム

●二人の外国人建築家

1933年5月ナチスの圧政から逃れて来日し3年半の滞在の大半の2年3ヶ月を高崎に寓居し、日本の美と文化を世界に紹介したドイツ生まれの建築家ブルーノ・タウト。

1919年12月に帝国ホテル設計のためフランクロイド・ライトの助手として来日し、日本で活躍したアントニン・レーモンド設計のコンクリート打放しの代表的な建築である群馬音楽センター。

麻布笈町のレーモンド邸の写しである木造住宅の旧井上房一郎邸が現存する群馬県・高崎市。日本の気候風土に培われてきた健全で簡素な美と文化に大きな衝撃を受け、何かを感じ、その後日本の建築界に大きな影響を与え、日本から世界に発信した二人の外国人建築家が日本の中に何を見たのか？ この二人に縁のある群馬で、連続企画「二人の外国人建築家/タウト＆レーモンド in 群馬・高崎」を中心軸に「日本のものづくりの原点」を探りながら、これからの「日本のかたち」を考え発信していきます。

連続企画第1回 ～ ブルーノ・タウトの映像を中心に～

- ◆ 第一部 ・DVD映像 ブルーノ・タウト生誕120年記念・ブルーノ・タウトの会制作「知のDNA 夢ひかる刻」解説と鑑賞
・パネルディスカッション 「地元の建築家が語るタウトの視点」

- ◆ 第二部 ・旧井上房一郎邸（麻布笈＜こうがい＞町のレーモンド邸の写し） 見学・解説

開催日時	2012年6月23日（土） 開場13:00 開始13:30 終了16:30
場 所	高崎市南公民館5階講義室（高崎市八島町110-27）
主 催	（社）日本建築家協会関東甲信越支部群馬地域会
共 催	ブルーノ・タウトの会 日本建築学会関東支部群馬支所
協 力	群馬音楽センターを愛する会 NPO 法人高崎哲学堂
後 援	群馬県 高崎市 高崎市教育委員会 NHK 前橋放送局 上毛新聞社 その他
参 加 者	53名（内・一般 38名）



城北地域会 まち歩き

サンシティと板橋の崖線

日 時： 2012年5月19日（土） 12:30 ～ 18:30

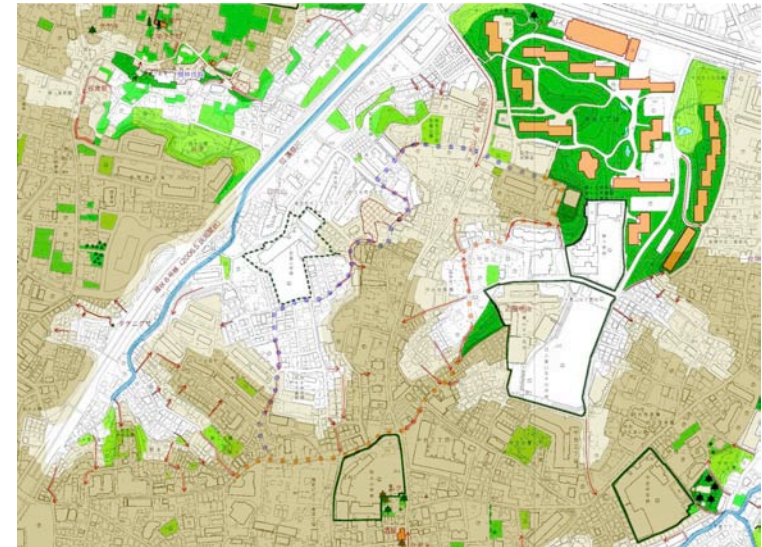
コース： 志村三丁目駅 ～ サンシティ ～ 若木二丁目 ～ 上板橋駅

講 師： サンシティ管理組合、JIA 城北地域会所属建築家

参加者： 城北地域会会員および市民 10名

概 要： 板橋区北西部から北区を縦断する武蔵野台地の周縁部の崖線は、城北地域の景観上の特色の一つです。その崖線に沿って、みどり豊かな集合住宅・サンシティと木造住宅が密集していますが不思議な魅力に満ちた「若木二丁目地区」を訪ねたまち歩き。

人が集まって住むことの魅力やコミュニティについて考えたまち歩きでした。



（左：サンシティの中庭にて／右：若木二丁目地区）

都市デザイン部会 シンポジウム

美しいまちへ 建築家が担うこと・市民が担うこと

日 時： 2012 年 6 月 23 日（土） 15:00 ～ 18:30

会 場： JIA 館 1 階 建築家クラブ

講 師： 都市計画家・Cーまち計画室代表 柳 沢 厚 氏

参加者： JIA 会員および市民 約 40 名

第一部 地域会からの報告 15:00 ～ 16:00

新宿，城北，千代田，杉並，世田谷，渋谷 の各地域会

第二部 円卓サロンセミナー 16:15 ～ 18:30

ゲストショートレクチャー 16:15 ～ 17:00

「街をつくる建築」をつくろう

～支援制度を活かすも殺すも建築家しだい～

都市計画家・Cーまち計画室代表 柳 沢 厚 氏

第一部の報告をふまえた意見交換 17:00 ～ 18:30

進行： 都市デザイン部会 部会長 鯉 坂 徹



概 要

基調となる講演では、「日常業務」で直面する建築基準法や都市計画法等の法制度の中で我々の抱える葛藤について、的確なご指摘とエールを戴いた。

それに引き続き進められた意見交換において、第一部で報告された地域会の活動と合わせ、法制度における定量的な基準と定性的な基準について議論した。数値化できる定量的基準に比して、裁量性を多く含んだ定性的な基準に建築家はどのように向き合えるのかが氏より問われる。

日常の業務から離れ地域などで活動する建築家が、日常の業務として「美しいまち」へ貢献していくためには、我々の意識改革も必要であり社会への我々の存在意義を発信し社会を変えていく努力も必要であるとの認識を確認した。

第 14 回新潟県内大学生卒業設計コンクール 2012

主 催 社団法人日本建築家協会
 関東甲信越支部 新潟地域会
活動期間：2012 年 6 月 2 日～6 月 3 日
会 場 ：上越市町家交流館高田小町

本年の新潟県内大学生卒業設計コンクールは 14 回目にして初めて、上越市で開催しました。上越市高田地区の町家を再利用した施設である「町家交流館高田小町」が会場となりました。小屋梁などの構造を表した吹き抜けを持つ町家はたいへん趣がありますが、出品作品展示に必要な備品がほとんど無く、ラワン合板の展示パネル、レンタルの折り畳みテーブルなど、まさに手作りの展示会場となりました。

特別審査員に昨年度「ヨコハマアパートメント」で JIA 新人賞を受賞されたオンデザインの西田司氏、中川エリカ氏をお迎えし、審査会の間に受賞作品の解説を兼ねた講演会も行っていました。

新潟県内には建築系の学科を持つ大学が 4 校（新潟大学、長岡造形大学、新潟工科大学、職業能力開発短期大学）ありますが、本年は 3 校より 12 作品のエントリーがありました。そのうち 10 作品のプレゼンテーションが行われ、一次審査で 7 作品に絞り込み、二次審査で金賞、銀賞、銅賞、そして特別審査員賞である西田賞、中川賞が選定されました。

審査会は 7 人の審査員による熱い討議の結果金賞に長岡造形大学の川村千絵さんの「鉱場巡景」が選ばれました。

この作品は実在する長岡市内にある天然ガス採取プラントが枯渇したあと 50 年をかけプラント施設の構造物が緑に埋もれ消滅していく過程をプランニングしたものです。

作り出す建築ではなく、消していく過程をプランニングしていく事も広い意味でとらえれば建築デザインだと評価されました。

審査会終了後の交流会では審査員を囲んで学生たちの真剣な質問、議論が交わされました。



JIA 関東甲信越支部 2012年 新会員の集い

■ 開催日：2012年7月5日（木）13:00～15:30（JIA館1階 建築家クラブ）

■ 主催：関東甲信越支部 総務委員会

概要

毎年アーキテツガーデンの開催に合わせて行われてきました新会員の集いですが、昨年はUIAで開催されなかったため今回は一昨年の方々もお誘いし開催しました。

本年は4名の新会員、知久昭夫(中段左)、中村晃(下段右)、野原啓司(下段左)、白江龍三(中段右)の各氏の参加によって行われました。当日欠席の加藤峯男氏(上段右)と菊池嘉明氏(上段左)はデータを送っていただきました。

上浪支部長、西勝支部総務委員長からのあいさつに続き、JIAの組織や活動の概要説明と、CPD 必須に位置づけられるとする建築家憲章、倫理規程、行動規範に重点を置いた説明が行われました。さらに委員会部会の紹介では全体の紹介に合わせ、建築家資格制度、アーバントリップ、交流の各委員会と学芸会部会による詳細な説明が続きました。今後委員会部会等に参加され活発な活動をされることと思われます。

そして最も注目される新会員による自己紹介が行われました。これまでパネル展示での紹介が行なわれてきましたが、今年は参加新会員への負担を軽減すべくプロジェクターによる映像表現に統一しました。

個人や組織のプロフィールはもとより実績作品紹介を通じ、各人の建築に対する理念や哲学が大いに表現されたものとなり参加者を含めてお互いが理解できる絶好の場となりました。

既に委員会・部会・地域会等で活躍されている方もおり、これからもJIAの発展に寄与頂けると確信しました。

意見交換のできる十分な時間が確保できませんでしたが、是非、既会員の皆様にもこのような機会に参加いただき、さらに会員同士のつながりが深まり今後の協会活動の活性化につながることを期待するところです。

新会員による実績紹介風景



新会員の作品



作品出展者



写真：石黒守

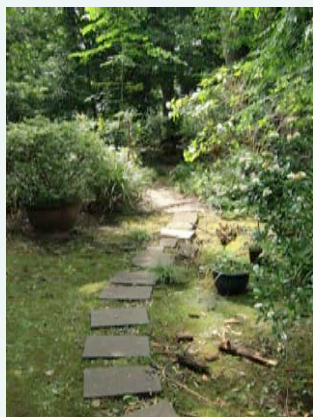
■ 歴史的建造物見学会 ■

中野地域会

2012年6月23日実施



茅葺きのS家住宅



S家住宅の庭；異次元空間への散策路



旧T家住宅前で小西先生からレクチャー



バウハウス出身の山脇巖設計
三岸画伯アトリエ；明るい天井の高い空間



旧T家住宅前の櫟並木の小道；
落ち葉は迷惑なもの？

中野地域会では中野たてもとの応援団長でもある小西先生のご案内で鷺宮周辺のまち歩きをしました。全体で10名、会員以外の参加者は5名でしたが、千葉大の学生たちが住宅を同時に見学したりとにぎやかな催しとなりました。

午後1時半に鷺宮駅に集合して徒歩で出発。はじめの住宅（H邸）に行く途中でも小西先生の博学とこまめな調査でお寺や某有名建築家の古い都営住宅をご説明頂きました。H邸はかなり痛んでいましたが中野で唯一の茅葺屋根の現存住宅という事で、広い森の中にあり周辺のマンション街からは想像ができない異空間となっています。

次に向かったのはかの宮崎駿も訪れた造園学の大家の住宅（T邸）で、実生の大きな櫟があるお宅です。家の中は平屋の良さが感じられ庭との連続感がいい住宅でした。

3カ所目はバウハウス出身の山脇巖設計、三岸画伯のアトリエです。ここは今でも水彩画教室などで使っているとの事でした。建築当初の写真を見せて頂きましたが、床から立上がり屋根まで開けた大きな窓が明るい空間を作っていたようで、周囲の畑とインターナショナルスタイルのモダンな外観との対比はとても珍しいものだったのではないかと感じました。今はトップライト部分はなくなっていますが木造にも関わらず天井の高い白い大きな空間は充分魅力的なもので、参加者の皆さんも一番長くいたところでした。最後に一般のみなさんとお茶け？して帰りました。ご準備頂いた齊藤さんほか、ご説明の小西先生をはじめ参加の皆様方に感謝申し上げます。

アーバントリップX 2012年度アーキテクツガーデン参加プログラム

東京工業大学 大岡山キャンパス見学会

「緑豊かなキャンパスと地域性を探る」



新図書館前での説明を受ける



壁面緑化の説明を受ける

開催日 2012年6月30日(土) 13:45~16:45

参加者 57名(地域住民21名・区役所8名・他一般7名・JIA関係21名)

主催 日本建築家協会 関東甲信越支部 城南地域会

日本建築家協会 関東甲信越支部 アーバントリップ実行委員会

協力 東京工業大学 建築学専攻 安田研究室

城南・風景とまちづくりクラブ